

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

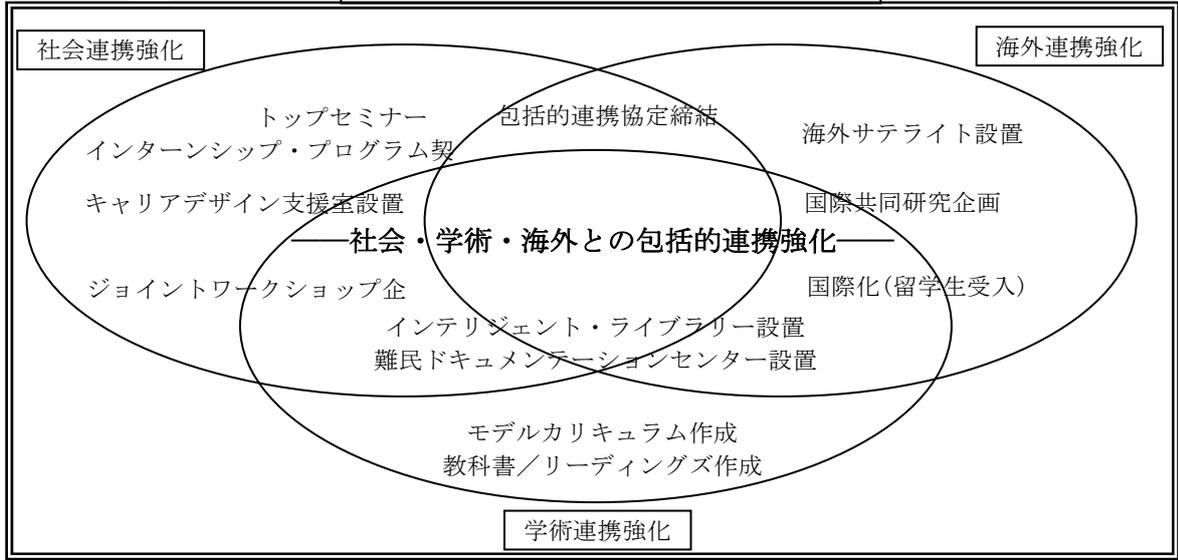
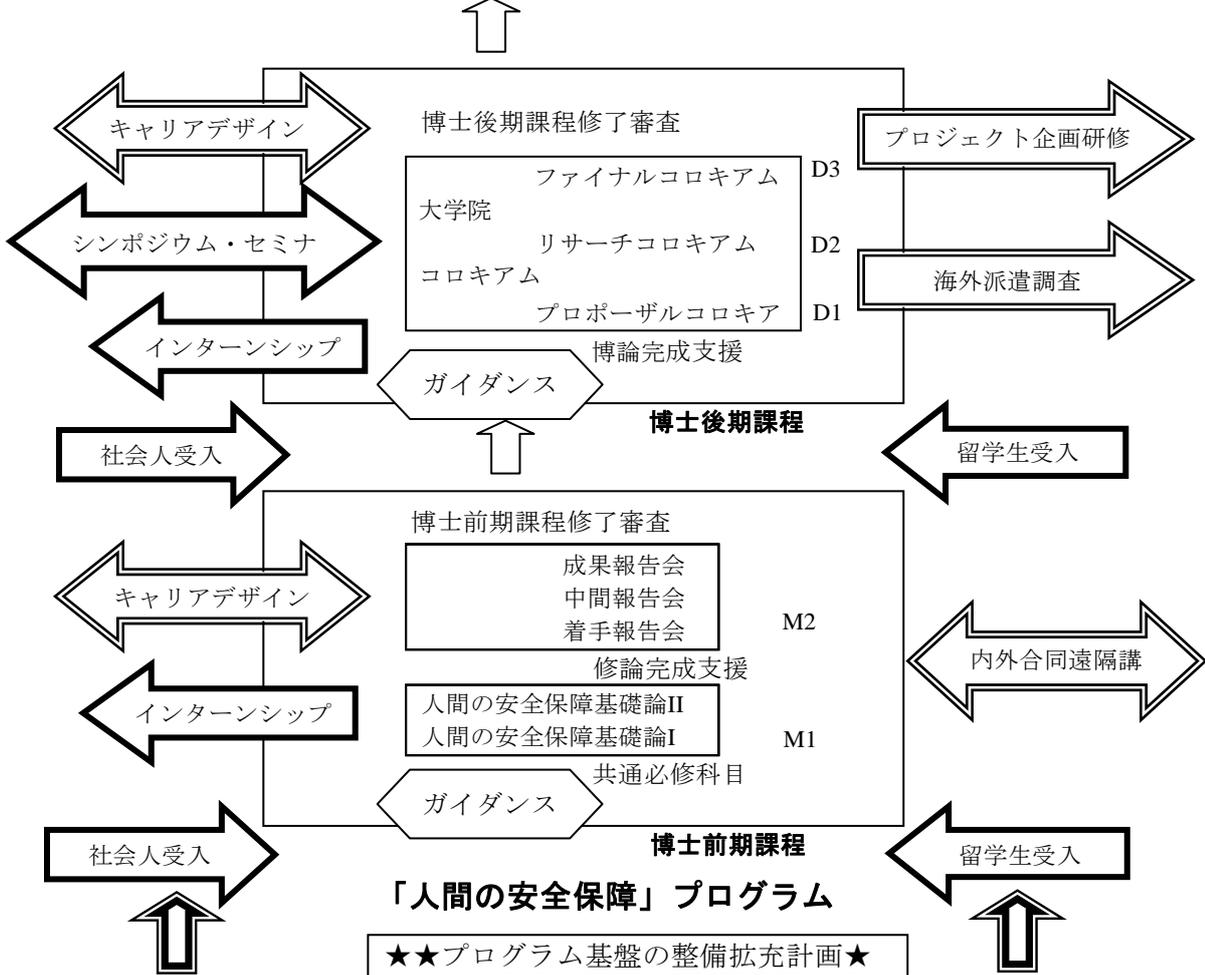
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東京大学	整理番号	a005
1. 申請分野(系)	人 社 系		
2. 教育プログラムの名称	「人間の安全保障」プログラムの整備拡充		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 政治学、地域研究、文化人類学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (国際関係論、国際法学、地域研究、文化人類学、経済発展)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (〔 〕書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 総合文化研究科・国際社会科学専攻〔博士前期課程〕 総合文化研究科・国際社会科学専攻〔博士後期課程〕	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 木 畑 洋 一	
	(その他関連する研究科・専攻名) 総合文化研究科・言語情報科学専攻〔博士前期課程〕、総合文化研究科・言語情報科学専攻〔博士後期課程〕 総合文化研究科・超域文化科学専攻〔博士前期課程〕、総合文化研究科・超域文化科学専攻〔博士後期課程〕 総合文化研究科・地域文化研究専攻〔博士前期課程〕、総合文化研究科・地域文化研究専攻〔博士後期課程〕 総合文化研究科・広域科学専攻〔博士前期課程〕、総合文化研究科・広域科学専攻〔博士後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>東京大学は、世界のリーディング・ユニヴァーシティとして、大学院教育において「多様な専門分野に展開する研究科、附置研究所等を有する総合大学の特性を活かし、研究者および高度専門職業人の養成のために広範な高度専門教育システムを実現する」(東京大学憲章)ことを使命とし、中期目標・中期計画においては、「未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富んだ国際的に活躍できる研究者および社会の先頭にたつ人材の養成」を大学院教育の目標に掲げている。東京大学は、こうした観点から、今回の「魅力ある大学院教育」イニシアティブを、①新しい知の統合や学際的学融合的な新分野の創成とその大学院教育への還元、②研究の高度化と高度職業人養成、社会的ニーズに応じた高度の実践力をもった人材養成との結合、③研究と教育の国際化のいっそうの促進、④大学院教育における学生の能動性のいっそうの発揮、などの努力に飛躍をもたらす機会と位置づけている。本プログラムの実施をサポートする全学的施策を講ずる他、2年間のプログラム終了後も、当該研究科・専攻の自主的な努力に加え、全学的なレビューを経て大学としても資源を投入するなどの努力を集中して継続することをめざす。</p>			

機 関 名	東京大学	整理番号	a005
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>新制大学発足と同時に大学院博士講座を備えた教養学部は、1996年に総合文化研究科(5専攻)・教養学部(6学科)となったが、リベラルアーツ教育の実践というその創設の理念を踏まえ、常に広い視野から既存の専門を見直しつつ、国際関係論や文化人類学など学際的・国際的な性格をもつ新しい研究分野を切り開いてきた。この50年余の蓄積を踏まえ、自らが築き上げた各分野の研究を引き続き発展させるとともに、文理横断的な領域を含めた融合科学の創生ステーションとしての役割を果たし、21世紀の学問の新しいディシプリンの創造に貢献することを目指している。教育目標としては、領域創成的学際性と世界への知的貢献を実践する国際性を基軸とした教育を行い、専門領域における最先端の研究者として学問の高度な発展に寄与するばかりでなく、社会の実践的分野で幅広く活躍する問題解決型の人材、広い視野を備えたグローバルなリーダー・専門家を養成することを掲げている。その具体的計画のひとつが、国際研究先端大講座「人間の安全保障」プログラムによって国際社会の秩序形成に関する教育・研究を担うとともに、国際貢献に寄与する人材の養成を行うことである。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>総合文化研究科は、平成16年度、全5専攻を横断する「国際研究先端大講座」(定員12名)を設置し、教育と研究とを統合する活動として「人間の安全保障」イニシアティブを開始し、その教育部門として修士(国際貢献)・博士(国際貢献)の学位を授与する「人間の安全保障」プログラム(HSP)を発足させた。この試みは総長により「我が国の国際的役割が本格化する時代にあって、地球規模の視野と問題解決能力を持つ人材の育成が必要とされており、社会のニーズに合致した将来性のある構想である。総合文化研究科はこの目的にもっとも合致した組織であり、十分な力量もある。」と評価され、平成16年度から6年間の予定で総長裁量定員(教授2、助手2)・経費を配分されている。これは独自の専任教員定員のみならず、独自の学生定員・学位・入試を備える全国に例をみない教育制度である。学生は5専攻のどれかに所属して、その学問分野を専攻しつつ、HSPの特設科目を履修することにより、「人間の安全保障」という人類にとって喫緊かつ複雑な課題に取り組む広範な能力を有する高度研究者を博士前期課程・博士後期課程を通じて養成している。</p> <p>このユニークなHSPを一層推進するために、その基盤を整備拡充する計画を、ここに申請するものである。すなわち、文理横断型の国際研究先端大講座を基礎にして国際社会に貢献する「人財」養成を目指し始めたHSPを一層推進するため、社会・学術・海外との包括的な連携(パートナーシップとネットワーク)を強化することにより、博士前期課程・博士後期課程における教育内容の充実に加えて、日本内外における需要・要請・期待に応える「人財」輩出を積極化する。</p> <p>2年度にわたる基盤の整備拡充事業は、事業完成後もHSPのさらなる発展を確実なものにするだけでなく、本学を日本のみならず世界の「人間の安全保障」研究教育のハブとし、今後とも、国際的に通用する若手研究者を生み出す拠点とするだろう。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

「国際貢献」にはばたく「人財」



言語情報科学専攻 超域文化科学専攻 広域科学専攻

国際社会科学専攻 地域文化研究専攻

国際研究先端大講座

大学院総合文化研究科の全5専攻を横断する大講座

機 関 名	東京大学	整理番号	a005
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1430 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1430 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1016 1430 1144">・豊かな研究教育資源を最大限に利用した意欲的かつ精緻なプログラムである。5専攻に所属してディシプリンを修得しながら、共通特殊科目の体系的履修により、人間の安全保障を通じた国際貢献のできる「人財」養成は、優れた取組である。 <li data-bbox="165 1160 1430 1238">・「安全保障」という社会性が高く広範な領域をカバーする教育・研究成果が十分に期待できる組織およびプログラムとなっており、大学全体の支援体制も十分と言える。 			